小体育科教育部会

教材の本質をふまえた体育指導のあり方
～走・跳の運動（遊び），陸上運動を通して～

1　研究の内容

1　研究の具体的内容

（1）言語活動を取り入れることにより，走・跳の運動（遊び），陸上運動における思考を高め，さらには技能を高めることにより，目標とする児童の姿にせまれる指導法について研究する。

（2）授業案をもとに授業実践を行う。その成果と課題について話し合い，今後の授業や研究に活かしていく。

2　授業研究

4年生　「小型ハードル走」（走・跳の運動）

三澤　瞬　　教諭　加納岩小

5年生　「走り幅跳び」　　（陸上運動）

小椋　規雄　教諭　塩山南小

（1）授業実践から学んだこと

・教師の発問により，動きのポイントが明確になり，子どもたちも意識して授業に取り組むことができていた。また，ポイントに関わった内容で声かけやアドバイスができる子どもも多くいた。こういった言語活動は，思考や技能の向上に有効であった。

・言語活動を取り入れた授業実践を研究してきたが，言語活動そのものが授業の目的になってはならない。あくまでも体育の目的を達成するための手段である。しかし，言語活動を取り入れることは，子どもの思考力や技能の向上に役立つものであると認識した。

・子どもの実態をもとに，発達段階も考慮する中での工夫された学習カードづくりや子どもの授業への意欲の高まるような練習方法などを工夫する中で，めあての持ち方や課題に向かっての主体的・探求的な学習を進めることができた。

・限られた単元時数の中での授業になるので，的を絞った指導が大切である。教師が目指す子ども像を持ち，どのような力を身につけさせたいのかを考えて教材研究を行い，授業展開の中で言語活動やグループ活動などの仕掛けをどう仕組んでいくのか工夫が必要である。

（２）授業実践から，今後さらに研究を深めたいこと

・陸上運動（走・跳の運動）における各学年の系統性と段階的な技能のポイント
・陸上運動（走・跳の運動）を通して児童に身につけさせたい力や高めたい力
・言語活動と技能のポイントを関連させること
・児童の発育発達段階にあい，自然に意欲的に取り組めるような場づくりや動き
・思考力を高めるような学習カード
・技能向上のための授業展開
・個に応じためあてのもたせ方やそれに対する評価指導

Ⅱ　成果と課題

1　成果

・言語活動を有効に仕組むことにより，思考の高まりを期待し，技能の高まりにつながるような授業を研究してきた。そのことにより，さまざまな討議を重ねてこれたこと。
・年間２回の授業研究を行うことにより，いろいろな指導法について考え，深めることができたこと。また，その際に指導主事からも資料を提示していただき，理論研究や指導法の学習ができたこと。
・個の目標記録を設定したり，場の工夫をしたりすることで，子どもたちは自分のめあてにそって活動することができ，楽しみながらも集中して取り組む姿が見られたこと。
・技能のポイントを明確にした「動きの宝箱」を活用したことにより，子どもたちが運動のイメージを具体的に捉えやすくしたこと。

2　課題

・集団づくりの要素も，体育科に課せられた重要な要素になっていると思われる。今後も，仲間との交流（学び合い・教え合い）を意識しながら，指導のあり方を研究していきたい。
・陸上運動のなかにもいろいろな種目があるので，多様な考えや理論を深めていくために，種目を絞ることも必要であるかもしれない。
・本部会で研究された実践を広く伝えていく必要がある。限られた範囲で深まっていく研究にとどまらずに，いろいろな先生方が現場で実践できるような方法を考えていきたい。
・理論研究を重ねるとともに，実技講習等を企画し，私たち教師の指導スキルを高める必要がある。

（部長　小宮山　公仁）